

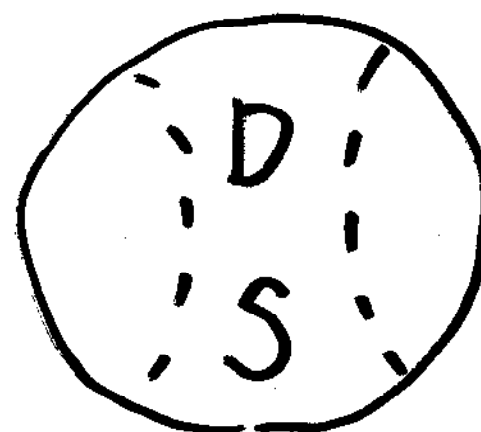
## グループの旗

Cコース: / グループ

グループのネーミング

ドラゴンズサークル

シンボルマーク



24 年 3 月 26 日

チーフアドバイザー

鈴木 利哉

アドバイザー

倉橋 理治

## 役割分担

No	役 割	氏 名	会 社 名
1	リーダー	山口 義生	東郷製作所
2	サブリーダー	二神 崇史	トヨタ自動車株式会社
3	発表者	山本 歩夢	株式会社 アイシン
4	質問者	杉本 明洋	株式会社 デンソーカーブ
5	書記 1	手島 陽平	フタバ産業株式会社
6	書記 2	宇佐美 彩	ゴムノキ株式会社
7	時間係・5 S	松尾 朋紀	株式会社 オティックス
8			
9			

## グループの決め事

No	内 容	評 価
1	みんなが積極的に発言する	○
2	みんなで時間を守る	○
3	意見を最後まで聞く	○
4	他人の意見を批判しない	○
5	疑問はその場ですぐ聞く	○

★活動終了時に全員で評価を実施します

★評価は、○、△、×等で記入

※全ての資料は大きく濃い字で書きましょう!

## 2. 現状把握

## 《現状把握メモ》

	気になる現象(コマが上手く抜けた時と、コマが上手く抜けなかった時の違いを見てください)	
	コマが上手く抜けた時	コマが上手く抜けなかった時
人	【人では？】	・力が足りない
		・経験が足りない
		・正しい方向に人がいる
道具	【ハンマー、机、シートでは？】	・ハンマーの小さい方でたたいて
		・テーブルにまっすぐかかる
材料	【ダルマ、コマでは？】	・ダルマがずれている
		・コマの大きさがちがう
方法	【積み方、たたき方では？】	・テーブルにハンマーを付けてたたいて
		・中心をたたいていけよ
		・ハンマーの持ち方
測定		
環境	【実施する場所では？】	・テーブルにまっすぐかかる

Cコース: / グループ

リーダー研修会(初級)

計算表(改善前)

	回数	成功率
5段成功	1	5
5段目失敗	1	
4段目失敗	1	
3段目失敗	5	
2段目失敗	7	
1段目失敗	6	
合計	21	

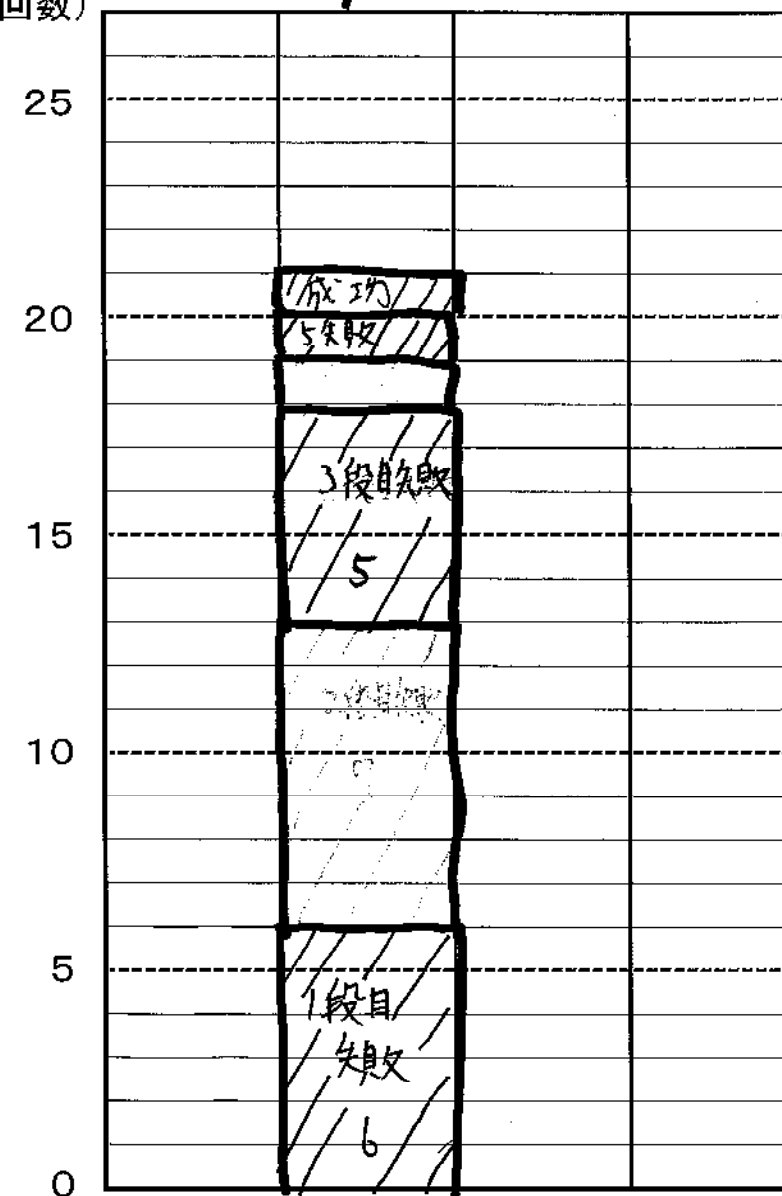
(改善前)

作成日: 6年3月26日

作成者: ~~C-1~~ C-1

成功回数: 1

(回数)



改善前

### 3. 目標の設定・活動計画作成

Cコース: / グループ

具体的目標：なにを、いつまでに、いくらをいくつに

(※ 目標の設定根拠も記入するとよい)

なにを： 成功率 5% を

いつまでに： 今日中に

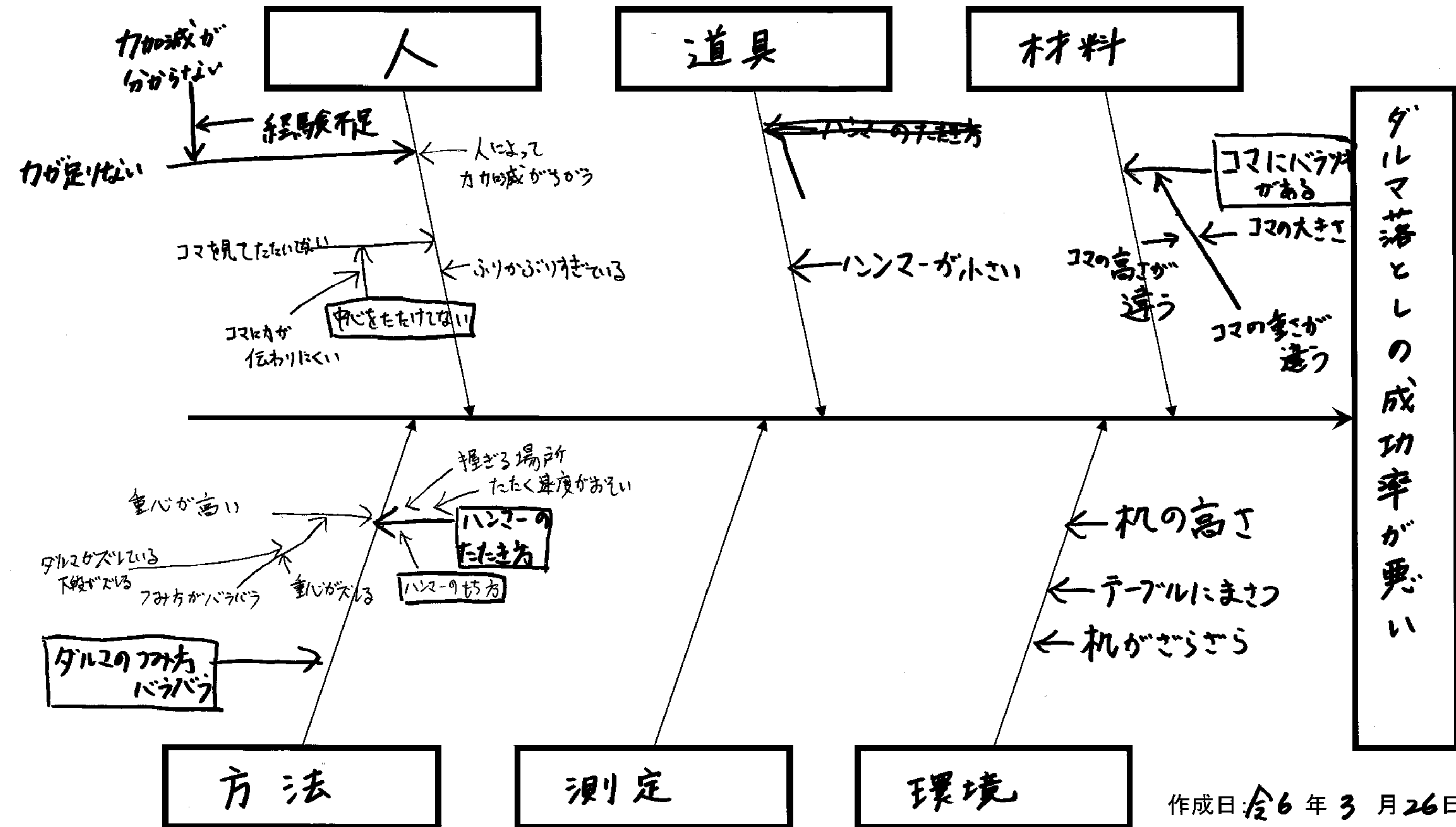
いくらをいくつに： 成功率 50%以上にする

→ 1人1.5回以上成功すれば、達成できる

## 4. 要因の解析

要因をもれなく拾い上げて整理する。なぜなぜを繰り返す。

Cコース: / グループ



作成日: 令和6年3月26日

作成者: C4-u

## 要因の絞込みと検証

Cコース: / グループ

- ① 観察で確かめる(現地・現物で確かめて要因を絞り込む)
- ② データや事実に基づいて確かめる(必要な要因に絞ったデータ・事実確認)
- ③ 実験・試行して、悪さ加減を確かめる(悪さの再現と要因探し)

	主要因	検証結果	採否
	コマのばらつき	テーパの検証(要) 高さ、重さ共にバラツキあっても成功率には関係ない	○ <del>×</del>
	たたき方 中心をたたけていない	中心をたたいた方が良い	○
	ダルのつみ方がバラバラ	テーパの向きをそろえて積むと良い	○
	ハンマーの持ち方	短く握って持つと良い	○

## 5. 対策の検討・実施

Cコース: / グループ

## 評価の目安

◎ (効果は大きい) 5点  
○ (まずまずの効果) 3点  
△ (効果は小さい) 1点

(具体的方策案)  
3次手段

基本目的

1次手段

2次手段

カールマ落としの成功率を50%以上にするには

コマのバラつきを把握する

デハの位置を明かにする

コマの情報を覚える

中心をたたく

中心を把握する

ブレずにたたく

持ち方を統一する

持ち方をきめる

持ち方を統一する

持ち方をきめる

評価				評価点	優先順	採用
効果	実現性	コスト	納期			
デハの位置にシールをはる	◎	◎	◎	20	/	○
暗記する	△	△	◎	8	4	
中心にシールをはる	○	◎	◎	18	2	○
中心をたたく器具をつくる	◎	△	△	8	4	
練習する	○	○	△	10	3	
ハンマーを短くもつ	◎	◎	◎	20	/	○
デハの向きをそろえておく	◎	◎	◎	20	/	○
マニュアルをつくる(7名順番)	◎	△	△	10	3	○
ハンマーを短くもつ	◎	◎	◎	20	/	○
持つ位置に印をつける	◎	◎	◎	20	/	○

6. 効果の確認

計算表(改善前)

	回数	成功率
5段成功	1	4.8%
5段目失敗	1	
4段目失敗	1	
3段目失敗	5	
2段目失敗	7	
1段目失敗	6	
合計	21	

計算表(改善後)

	回数	成功率
5段成功	7	33.3%
5段目失敗	0	
4段目失敗	4	
3段目失敗	3	
2段目失敗	6	
1段目失敗	1	
合計	21	

(1) 結果

Cコース: | グループ

目標	結果
成功率 50%!!	成功率 33.3%

(改善前)

作成日: 6年3月26日

作成者: 奇島

成功回数: 1

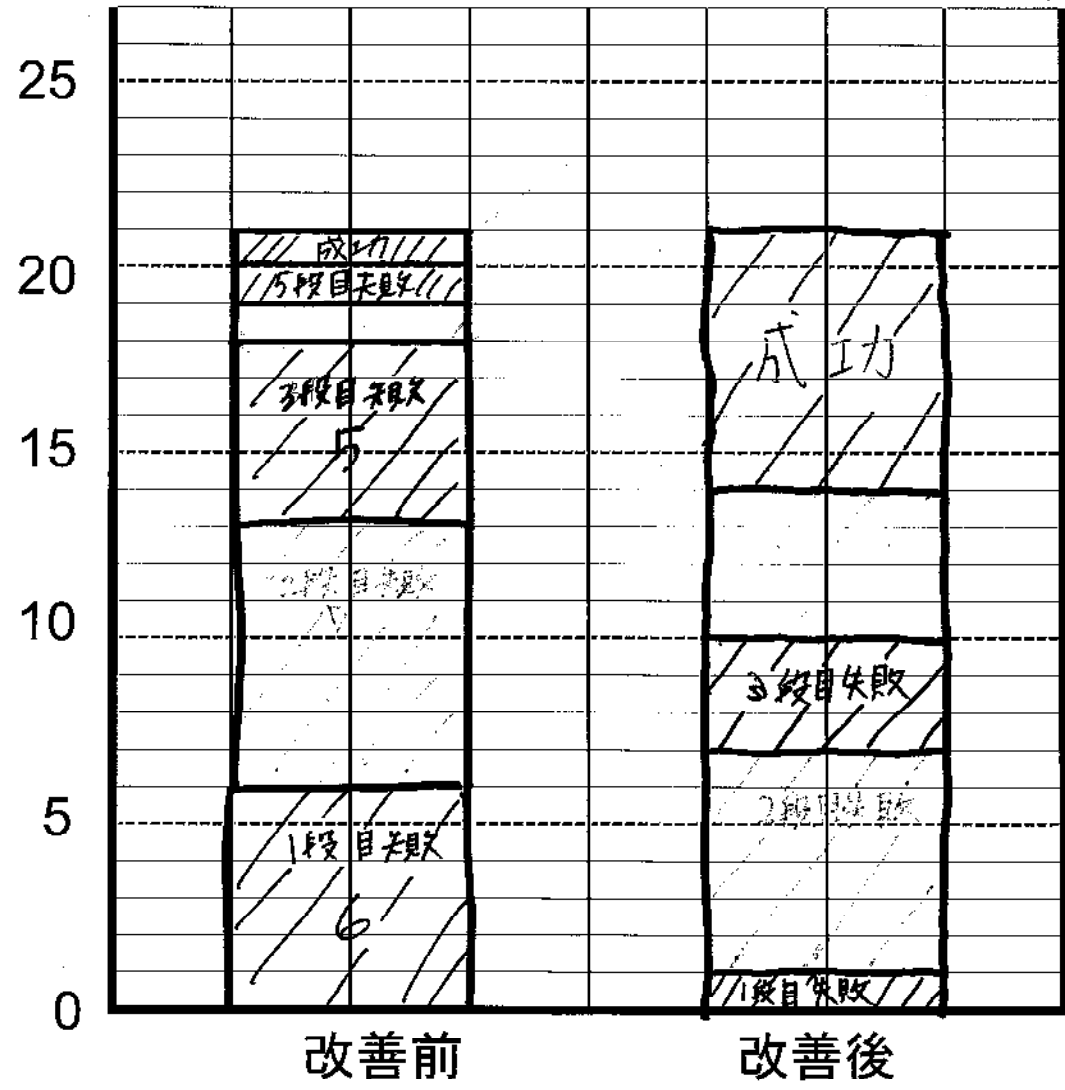
(改善後)

作成日: 6年3月26日

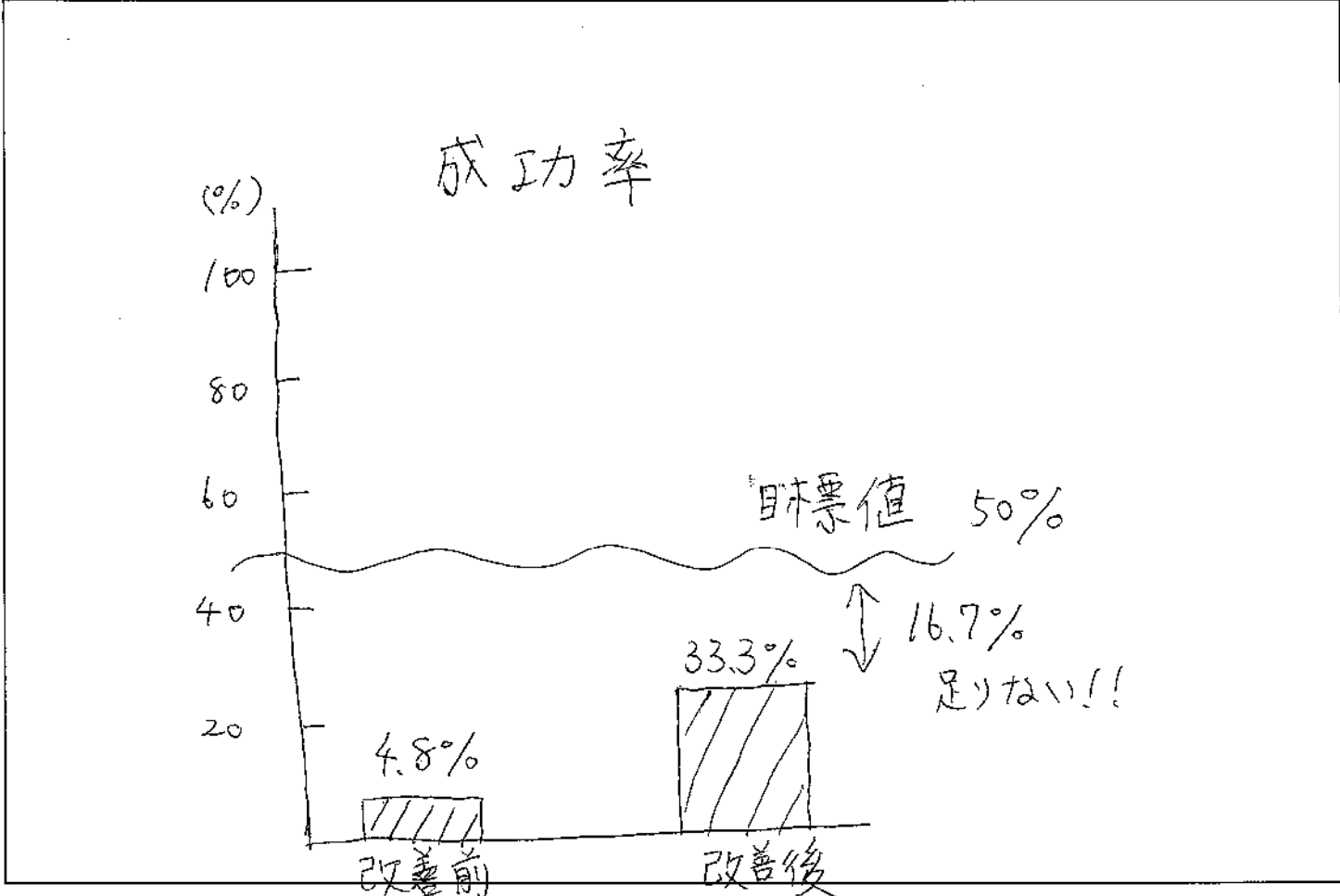
作成者: 奇島

成功回数: 7

(回数)



(2) 目標との差分析



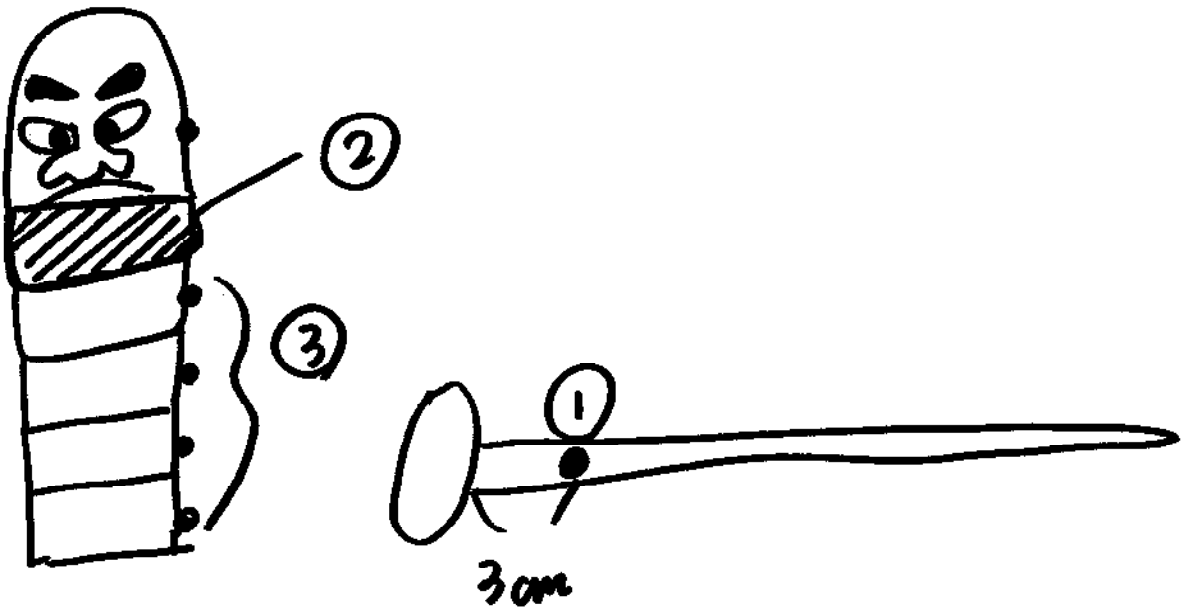
7. 標準化

Cコース: 1 グループ

【標準化(ルール化)する】

なぜ	なにを	いつ	どこで	誰が	どのように
中心をずらすために	ハンマーにシールを	今日	会場で	寺島	① 貼る
積み方を統一するために	コマの7枚側を テーパの位置を	＝	＝	全員 ② ＝ ③	② ルール化する ③ そろえる
コマのバラつきを把握するために	テーパの位置にシールを	＝	＝	寺島 ③	③ 厚い方に 貼る
持ち方を統一するために	ハンマーをもち位置を	＝	＝	＝ ①	① 短くする(3cm)

図で説明する





## 8. 反省と今後の進め方(今後の活動の糧にする)

Cコース: 1 グループ

※ダルマ落としの感想でなく、研修会に参加しての感想

## ☆ よかった点

- ・QCCリーダーに慣れた人の立ち回りをみて勉強になった。色々な企業の方とコミュニケーションがとれて良かった。(寺島)
- ・皆で問題を解決していくので、チームワークの大切さを学んだ。(松尾)
- ・実践を通じて、QCCサークルとは、どういったものかを知る事ができた。(山本)
- ・自分一人では進め方が1パターンになってしまうが、メンバーとやることで色々なパターンに気づけて良かった。(山本)
- ・違う職場の方と交流することで、QCC活動の進め方や考え方について勉強になった! 新たな発見ができて良かった。(宇佐美)
- ・役割を決めることで、各自主体的に取り組めた。(ニ神)
- ・要因に対し、比較検証を行い、結果につなげる事ができた(杉本)

## ☆ 反省する点

- ・意見が全く言えなかった事。サークルについても、と詳しくなって理解を深めたいと思った。(寺島)
- ・発言が少なく積極性が足りなかったためQCCについても理解を深めたいと思った。(松尾)
- ・始めから積極的にコミュニケーションをとれば良かったと思う。(山本)
- ・特性要因図の使用手法がまだあいまいで活発に意見が出せなかった。(山本)
- ・QCC活動について、初心者로서、周りの人に頼りはなしになってしまった。(宇佐美)
- ・主要因の調査中に新たな、要因が出てきた為、要因解析が不十分だった。(ニ神)
- ・決め事をあまり意識して行動できなかった(杉本)